

平成8年度における宇宙開発関係経費の見積り方針（案）

平成7年8月 日
宇宙開発委員会決定

1. 科学の分野

(1) 開発

① 第20号科学衛星（MUSES-C）の開発

小惑星や彗星等の始源天体から、岩石・土壌等のサンプルを採取し、地球に持ち帰るミッションに必要な電気推進系、惑星間自律航法、サンプル採取、地球大気再突入及び回収等の技術の修得を目的とする第20号科学衛星（MUSES-C）について、M-Vロケットにより、平成13年度に打ち上げることを目標に開発に着手する。

2. 月探査の分野

(1) 研究

① 月周回観測・着陸実験衛星の研究

21世紀初頭に想定される月面での探査等の活動の展開に備え、月の地形、元素組成に関するデータを取得するとともに、月面着陸技術を修得することを目的とする月周回観測・着陸実験衛星に関する研究を行う。

3. 観測の分野

(1) 開発

① 地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）の打上げ年度の変更

地球観測プラットフォーム技術衛星については、平成7年度に打ち上げることを目標に開発を行ってきたが、組立試験時に発生した問題に対処し、同衛星の信頼性の向上を図るため、打上げを平成8年度に変更して、引き続き開発を進める。

(2) 開発研究

① 陸域観測技術衛星（ALOS）の開発研究

地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）、地球資源衛星1号（JERS-1）による陸域観測技術を更に高度化し、地図作成、地域観測、災害状況把握、資源探査等への貢献を図ることを目的とする陸域観測技術衛星（ALOS）について、H-IIロケットにより、平成13年度頃に打ち上げることを目標に開発研究に着手する。

(3) 研究

① 降水観測技術衛星の研究

熱帯降雨観測衛星（TRMM）のミッションを継承し、太陽非同期軌道を用いて、気候システムを解明するために重要となる中緯度域までの降水

等の日変化を観測することを目的とする降水観測技術衛星に関する研究を行う。

② ライダ実証衛星の研究

地球温暖化、気候変動等の解明に重要な雲、エアロゾル等を観測するライダについて、宇宙空間における機器動作の確認、トゥルスデータとの比較検証を行うライダ実証衛星に関する研究を行う。

③ オゾン層観測センサの研究

オゾン層全量分光計（TOMS）によるオゾン層観測の継続性を確保し、高分解能化、多バンド化等の高度化、国際的なデータの補完を目的とするオゾン層観測センサに関する研究を行う。

4. 通信の分野

(1) 開発

① 通信放送技術衛星（COMETS）の打上げ年度の変更

通信放送技術衛星については、平成8年度に打ち上げることを目標に開発を行ってきたが、技術試験衛星VI型の不具合の原因究明結果を受けて実施した総点検の結果を踏まえ、追加確認試験等を実施し更なる信頼性の向上を図るため、打上げを平成9年度に変更して、引き続き開発を進める。

(2) 研究

① 超高速通信技術開発衛星の研究

世界情報通信基盤（GII）等において重要な役割を担う高速・広帯域な衛星通信ネットワークの中核となるギガビット級通信衛星の実現に必要な超広帯域中継器技術、高性能アンテナ技術等の超高速通信衛星技術の研究を行うとともに、この技術の開発及び宇宙における実験・実証を目的とする超高速通信技術開発衛星に関する研究を行う。

② 超高速光衛星通信システムに関する研究

地球観測データの伝送や宇宙ステーション活動等において発生する大容量の情報の伝送需要に対処するため、超高速光衛星通信システムの実現に必要な技術に関する研究を行う。

5. 宇宙環境利用の分野

(1) 開発

① 宇宙ステーション補給運用の準備

宇宙ステーションの運用準備の一環として、我が国の輸送系を含めた国際的な補給計画の設定を行うために必要な準備を行う。

(2) 開発研究

① 次世代型無人宇宙実験システム適合型宇宙環境利用実験装置の開発研究

宇宙環境利用の産業分野での促進を図るため、独が開発する宇宙機に搭

載し、H-IIロケットにより、平成12年頃に打ち上げることを目標に、低コストかつフレキシブルな宇宙環境利用実験システム適合型宇宙環境利用実験装置の開発研究に着手する。

6. 人工衛星共通技術の分野

(1) 開発研究

① 技術試験衛星VIII型（ETS-VIII）の開発研究

大型展開構造物等の宇宙開発における基盤技術の修得並びに携帯型端末の使用が可能な移動体衛星通信システムの実現及びコンパクトディスク(CD)並の高品質な音声や静止画像の伝送を可能とする移動体衛星デジタルマルチメディア放送システム等の実現を目指し、10m級大型アンテナ、高出力中継器、衛星搭載交換機、高精度時刻基準装置による測位等に関する技術を宇宙で実験・実証することを目的とした技術試験衛星VIII型（ETS-VIII）について、H-IIロケットにより、平成13年度頃に打ち上げることを目標に開発研究に着手する。

7. 宇宙インフラストラクチャーの分野

[輸送系]

(1) 開発

① M-Vロケットの開発

第20号科学衛星（MUSES-C）を平成13年度に打ち上げることを目標に、M-Vロケットの開発を引き続き進める。

② H-IIロケットの開発

地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）及び通信放送技術衛星（COMETS）の開発計画変更に伴い、H-IIロケット4号機の打上げ年度を平成8年度に、5号機の打上げ年度を平成9年度に変更する。

また、宇宙ステーションへの補給・人工衛星の打上げ等の輸送需要に柔軟に対応でき、大幅な輸送コストの低減が可能なH-IIロケットについて、平成13年度に初号機を打ち上げることを目標に開発に着手する。

③ J-Iロケットの開発

光衛星間通信実験衛星（OICETS）を平成10年度に打ち上げることを目標に、J-Iロケット2号機の開発に着手する。

(2) 開発研究

① 宇宙往還技術試験機（HOPE-X）の開発研究

軌道上サービス、宇宙環境利用実験・観測、宇宙ステーション等へのサービスを可能とする無人有翼往還機の主要な技術の早期確立を目的とする宇宙往還技術試験機（HOPE-X）について、H-IIロケットにより、平成12年度頃に打ち上げることを目標に開発研究に着手する。

[拠点系]

(1) 研究

① 通信・放送衛星等の静止軌道上遠隔検査技術に関する研究

通信・放送衛星等の運用の安定性・継続性の向上を図るため、静止軌道上の衛星に対して保守、修理、燃料補給等を行う静止軌道サービス衛星の実現に必要な静止軌道上遠隔検査技術に関する研究を行う。

[支援系]

(1) 開発

① データ中継技術衛星（DRTS-W、E）の開発

通信放送技術衛星（COMETS）のデータ中継機能を継承・発展させ、地球観測衛星やJEMのデータ中継を行うことを目的とするデータ中継技術衛星（DRTS-W、E）について、H-IIロケットにより、平成12年度に打ち上げることを目標に開発に着手する。

(2) 研究

① 高精度軌道決定システムの研究

将来の地球観測衛星等に求められている衛星軌道の高精度決定に対応するため、GPS干渉測位及び衛星レーザ測距等を用いた高精度軌道決定システムに関する研究を行う。

② 宇宙空間からの電波監視に関する研究

今後、地球局の誤操作等により発射される電波が正常な衛星運用に支障を及ぼす恐れが増大することから、宇宙空間における電波利用の適正化を図り、通信衛星、放送衛星等の円滑な運用の確保に資するため、宇宙空間からの電波監視に関する研究を行う。

8. 施設の整備

① 数値宇宙エンジンの整備

最新の数値シミュレーション技術を最大限に活用し、研究開発の効率化及び高精度化を図るため、数値宇宙エンジンの整備を行う。

② 超高真空下における機構部品試験設備の整備

宇宙の超高真空環境下で使用する弁、アンテナ展開機構、ロボットアーム等摺動部を持つ機構部品の動作に係る研究及び確認試験に必要な極高真空環境試験設備、及び電子線、紫外線、振動等と超高真空との複合環境試験設備からなる超高真空下における機構部品試験設備の整備を行う。

9. その他

上記以外については、「宇宙開発計画」（平成7年3月29日決定）を推進する。

宇宙開発委員会について

平成7年8月9日
研究開発局

1. 宇宙開発委員会の役割

宇宙開発委員会は、宇宙開発委員会設置法に基づいて昭和43年に総理府に設置されたものであり、我が国の宇宙開発に関する重要事項について企画、審議、決定を行う。

2. 宇宙開発委員会の構成

委員長 浦野 休興 (科学技術庁長官)

委員 (常勤)

野村 民也 (東京大学名誉教授)

内田 勇夫 (前海洋科学技術センター理事長)

(平成7年8月23日任期満了) ※

(非常勤)

山口 開生 (日本電信電話(株)会長)

末松 安晴 (前東京工業大学学長、

通産省工業技術院産業技術融合領域研究所長)

※後任：長柄 喜一郎 (現理化学研究所副理事長)

3. 委員長代理の指名

本日14時から宇宙開発委員会が開催されるため、宇宙開発委員会設置法第6条第3項に基づき、委員長代理の指名が必要。

(参考)

宇宙開発委員会設置法 (昭和43年5月2日法律第40号) (抜粋)
(委員長)

第6条 委員長は、科学技術庁長官たる国務大臣をもって充てる。

2 委員長は、会務を総理し、委員会を代表する。

3 委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する常勤の委員が、その職務を代行する。

宇宙開発委員会（8月9日（水））の議事について

大臣欠席
のせい
ボリッ

大臣から、開会宣言をして頂くとともに、委員長代理の指名をお願いいたします。

・議事進行（案）

8月9日（水）14:00～14:10 委員会会議室

議事進行	発言者	発言要旨
開会	大臣	「これより、宇宙開発委員会を開会致します。」
委員長挨拶	大臣	
委員長代理の指名	大臣	<ul style="list-style-type: none"> ・宇宙開発委員会設置法第6条による、委員長代理の指名を行う。 ・野村委員を委員長代理に指名。
指名受諾	野村委員	<ul style="list-style-type: none"> ・指名を受諾する旨回答。
議事進行委嘱	大臣	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の議事を野村委員長代理に委嘱。
懇談	大臣／委員	（宇宙開発に関してご懇談頂ければ幸いです。）
大臣御退席		

宇宙開発委員会大臣御発言メモ（案）

平成7年8月9日
委員会会議室

（開会）

これより、宇宙開発委員会を開会致します。

●（大臣御挨拶）

このたび、国務大臣・科学技術庁長官、宇宙開発委員会委員長を拝命致しました、浦野侏興でございます。委員長就任にあたりまして、一言御挨拶申し上げます。

宇宙開発は、国民に夢を与え、また、豊かな生活をもたらすと共に、国際協力を通じて国際社会の安定と発展にも貢献するものであり、国としてこれを積極的に推進していくことが肝要であると考えております。

我が国の宇宙開発につきましては、これまで関係者の多大なる御尽力により積極的に推進され、全段自主技術で開発を行ったH-IIロケットの打上げ成功など、

着実な成果を挙げていると承知しており、私としては大変心強く感じているところであります。

また、現在、21世紀に向けた我が国の宇宙開発の指針となります「宇宙開発政策大綱」の改訂に向けての検討が行われると伺っております。

● こうした重要な時期に、我が国の宇宙開発政策をお預かりすることとなり、私はその責任の重さを痛感しているところであります。今後、各委員の皆様のご協力を頂きながら、私に課せられた使命を全うしていく所存でございます。

● 以上、甚だ簡単ではございますが、私の挨拶とさせていただきます。

(委員長代理の指名)

それではまず、宇宙開発委員会設置法第六条に基づき委員長代理の指名を行いたいと存じます。

のむら たみや

野村民也委員に、本委員会の委員長代理をお願い致したいと思っております。

野村委員、宜しくお願い致します。

[野村委員より引き受ける旨の挨拶]

それでは、以下の議事は野村委員長代理にお願い致します。

(御懇談)

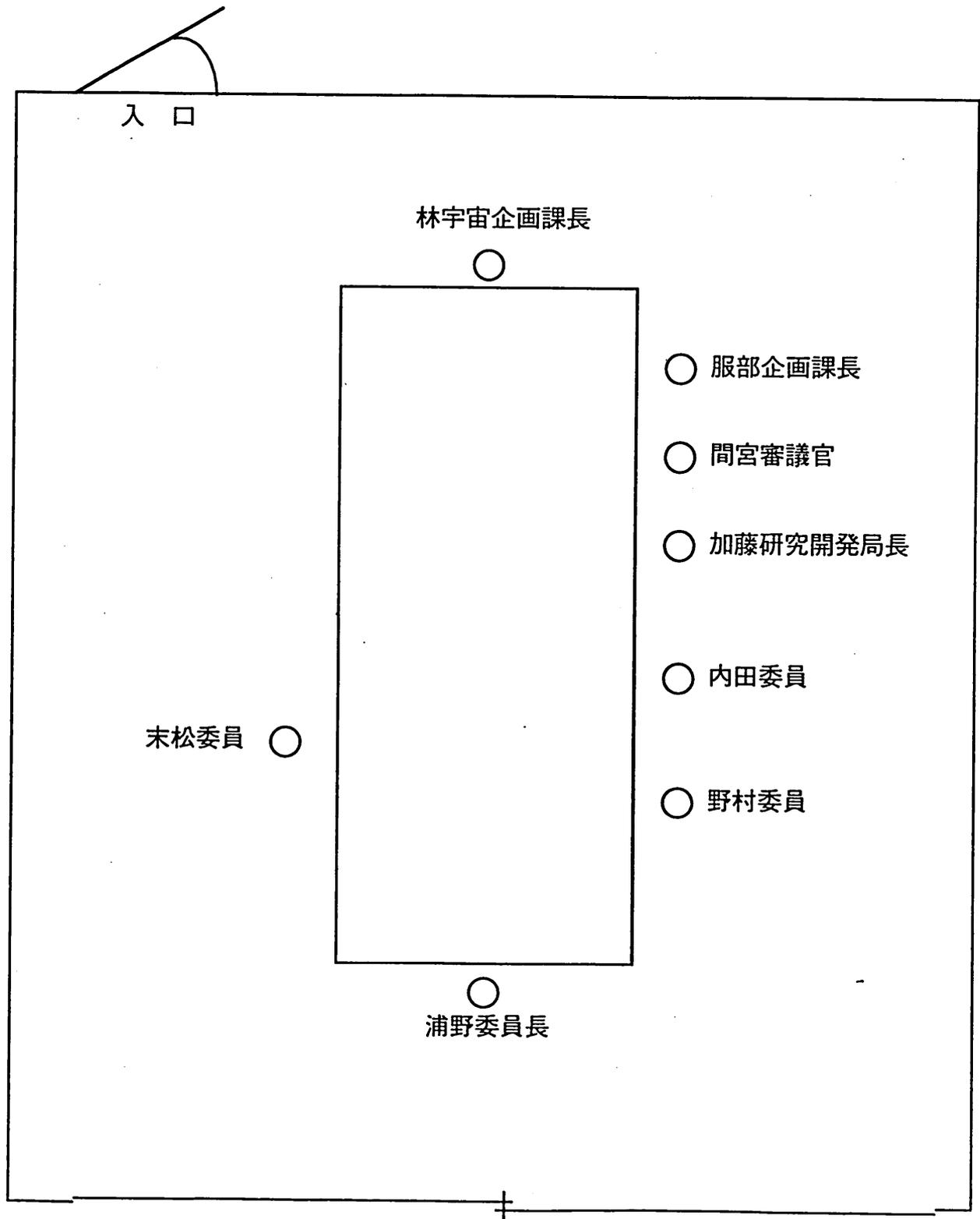
● (宇宙開発の推進について、御懇談いただければ幸いです。)

[大臣御退席]

宇宙開発委員会 座席表

平成7年8月9日(水) 14:00~

於; 委員会会議室



宇宙開発委員会委員名簿

平成7年8月1日現在

職名	氏名	生年月日 (年齢)	就任 回数	当初就任 年月日		任期満了 年月日	任命権者	最終学歴	主な前歴等
委員長代理	野村民也	T12. 9. 3 71	2	H 3. 4. 1		H 9. 4. 7	内閣総理大臣 (両議院の同意)	S 20. 9 東帝大・工・電気	東京大学宇宙航空研究所長 (S54.4~S56.4) 文部省宇宙科学研究所教授 (S62.3退職) 東京大学名誉教授
委員	内田 勇夫	S 6. 6.16 64	1	H 4. 8.24		H 7. 8.23	"	S 31. 3 東大・農・農化	科学技術事務次官 (H1.6退職) 海洋科学技術センター理事長 (H4.8退職)
" (非常勤)	山口 開生	T14. 6. 8 70	1	H 4.12.11		H 7.12.10	"	S 23. 3 東大・工・電気	現 日本電信電話㈱代表取締役会長
" (")	末松 安晴	S 7. 9.22 62	1	H 6. 7. 8		H 9. 7. 7	"	S 35. 3 東工大・電気	東京工業大学学長 (H1~H5) 東京工業大学名誉教授 日本学術振興会監事 (H6.4~H7.3) 現 工業技術院 産業技術融合領域研究所長 (H7.4~)

「平成8年度における宇宙開発関係経費の見積もり方針（案）」について

平成7年8月
研究開発局

1. 「見積もり方針」とは

- ・「見積もり方針」は、我が国の宇宙開発を国全体として計画的、効率的に進めるため、各省庁で検討している宇宙開発関係施策に関する要望を宇宙開発委員会が聴取し、調整の上、各省庁の平成8年度予算要求の具体的方向性を示すもの。
- ・各省庁は本方針に基づき予算要求を行い、その結果が8月末に「見積もり」として決定される。

2. 「見積もり方針」の概要

- ・平成8年度の「見積もり方針」は、別添の通りであるが、そのポイントとなる新たな開発プロジェクトは、以下の通り。

プロジェクト名	プロジェクトの概要	打上げ年度
第20号科学衛星 (文部省)	小惑星からの岩石・土壌等のサンプル採取する科学衛星の開発	平成13年度
H-IIロケットの 低コスト化 (科学技術庁)	H-IIロケットの打上げ費用を大幅に削減し、輸送需要に柔軟に対応するための開発	平成13年度
データ中継技術衛星 (科学技術庁)	地球観測衛星の観測データ等を効率的に地上に送信するために必要な中継衛星の開発	平成12年度

3. 今後のスケジュール

- 8月9日(水)・「平成8年度における宇宙開発関係経費の見積もり方針」を宇宙開発委員会が決定、関係機関への通知
- 8月30日(水)・関係各機関の宇宙開発関係経費を集計し、「平成8年度における宇宙開発関係経費の見積もり」を宇宙開発委員会が決定。

平成8年度における宇宙開発関係経費の見積り方針（案）

平成7年8月 日
宇宙開発委員会決定

1. 科学の分野

(1) 開発

① 第20号科学衛星（MUSES-C）の開発

小惑星や彗星等の始源天体から、岩石・土壌等のサンプルを採取し、地球に持ち帰るミッションに必要な電気推進系、惑星間自律航法、サンプル採取、地球大気再突入及び回収等の技術の習得を目的とする第20号科学衛星（MUSES-C）について、M-Vロケットにより、平成13年度に打ち上げることを目標に開発に着手する。

2. 月探査の分野

(1) 研究

① 月周回観測・着陸実験衛星の研究

21世紀初頭に想定される月面での探査等の活動の展開に備え、月の地形、元素組成に関するデータを取得するとともに、月面着陸技術を修得することを目的とする月周回観測・着陸実験衛星に関する研究を行う。

3. 観測の分野

(1) 開発

① 地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）の打上げ年度の変更

地球観測プラットフォーム技術衛星については、平成7年度に打ち上げることを目標に開発を行ってきたが、組立試験時に発生した問題に対処し、同衛星の信頼性の向上を図るため、打上げを平成8年度に変更して、引き続き開発を進める。

(2) 開発研究

① 陸域観測技術衛星（ALOS）の開発研究

地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）、地球資源衛星1号（JERS-1）による陸域観測技術を更に高度化し、地図作成、地域観測、災害状況把握、資源探査等への貢献を図ることを目的とする陸域観測技術衛星（ALOS）について、H-IIロケットにより、平成13年度頃に打ち上げることを目標に開発研究に着手する。

(3) 研究

① 降水観測技術衛星の研究

熱帯降雨観測衛星（TRMM）のミッションを継承し、太陽非同期軌道を用いて、気候システムを解明するために重要となる中緯度域までの降水

等の日変化を観測することを目的とする降水観測技術衛星に関する研究を行う。

② ライダ実証衛星の研究

地球温暖化、気候変動等の解明に重要な雲、エアロゾル等を観測するライダについて、宇宙空間における機器動作の確認、トゥルスデータとの比較検証を行うライダ実証衛星に関する研究を行う。

③ オゾン層観測センサの研究

オゾン層全量分光計(TOMS)によるオゾン層観測の継続性を確保し、高分解能化、多バンド化等の高度化、国際的なデータの補完を目的とするオゾン層観測センサに関する研究を行う。

4. 通信の分野

(1) 開発

① 通信放送技術衛星(COMET S)の打上げ年度の変更

通信放送技術衛星については、平成8年度に打ち上げることを目標に開発を行ってきたが、技術試験衛星VI型の不具合の原因究明結果を受けて実施した総点検の結果を踏まえ、追加確認試験等を実施し更なる信頼性の向上を図るため、打上げを平成9年度に変更して、引き続き開発を進める。

(1) 研究

① 超高速通信技術開発衛星の研究

世界情報通信基盤(GII)等において重要な役割を担う高速・広帯域な衛星通信ネットワークの中核となるギガビット級通信衛星の実現に必要な超広帯域中継器技術、高性能アンテナ技術等の超高速通信衛星技術の研究を行うとともに、この技術の開発及び宇宙における実験・実証を目的とする超高速通信技術開発衛星に関する研究を行う。

② 超高速光衛星通信システムに関する研究

地球観測データの伝送や宇宙ステーション活動等において発生する大容量の情報の伝送需要に対処するため、超高速光衛星通信システムの実現に必要な技術に関する研究を行う。

5. 宇宙環境利用の分野

(1) 開発

① 宇宙ステーション補給運用の準備

宇宙ステーションの運用準備の一環として、我が国の輸送系を含めた国際的な補給計画の設定を行うために必要な準備を行う。

(2) 開発研究

① 次世代型無人宇宙実験システム適合型宇宙環境利用実験装置の開発研究

宇宙環境利用の産業分野での促進を図るため、独が開発する宇宙機に搭

載し、H-Ⅱロケットにより、平成12年度頃に打ち上げることを目標に、低コストかつフレキシブルな宇宙環境利用実験システム適合型宇宙環境利用実験装置の開発研究に着手する。

6. 人工衛星共通技術の分野

(1) 開発研究

① 技術試験衛星Ⅷ型（ETS-Ⅷ）の開発研究

大型展開構造物等の宇宙開発における基盤技術の修得並びに携帯型端末の使用が可能な移動体衛星通信システムの実現及びコンパクトディスク(CD)並の高品質な音声や静止画像の伝送を可能とする移動体衛星デジタルマルチメディア放送システム等の実現を目指し、10m級大型アンテナ、高出力中継器、衛星搭載交換機、高精度時刻基準装置による測位等に関する技術を宇宙で実験・実証することを目的とした技術試験衛星Ⅷ型（ETS-Ⅷ）について、H-Ⅱロケットにより、平成13年度頃に打ち上げることを目標に開発研究に着手する。

7. 宇宙インフラストラクチャーの分野

[輸送系]

(1) 開発

① M-Vロケットの開発

第20号科学衛星（MUSES-C）を平成13年度に打ち上げることを目標に、M-Vロケットの開発を引き続き進める。

② H-Ⅱロケットの開発

地球観測プラットフォーム技術衛星（ADEOS）及び通信放送技術衛星（COMETS）の開発計画変更に伴い、H-Ⅱロケット4号機の打上げ年度を平成8年度に、5号機の打上げ年度を平成9年度に変更する。

また、宇宙ステーションへの補給・人工衛星の打上げ等の輸送需要に柔軟に対応でき、大幅な輸送コストの低減が可能なH-Ⅱロケットについて、平成13年度に初号機を打ち上げることを目標に開発に着手する。

③ J-Ⅰロケットの開発

光衛星間通信実験衛星（OICETS）を平成10年度に打ち上げることを目標に、J-Ⅰロケット2号機の開発に着手する。

(2) 開発研究

① 宇宙往還技術試験機（HOPE-X）の開発研究

軌道上サービス、宇宙環境利用実験・観測、宇宙ステーション等へのサービスを可能とする無人有翼往還機の主要な技術の早期確立を目的とする宇宙往還技術試験機（HOPE-X）について、H-Ⅱロケットにより、平成12年度頃に打ち上げることを目標に開発研究に着手する。

[拠点系]

(1) 研究

- ① 通信・放送衛星等の静止軌道上遠隔検査技術に関する研究
通信・放送衛星等の運用の安定性・継続性の向上を図るため、静止軌道上の衛星に対して保守、修理、燃料補給等を行う静止軌道サービス衛星の実現に必要な静止軌道上遠隔検査技術に関する研究を行う。

[支援系]

(1) 開発

- ① データ中継技術衛星 (DRTS-W、E) の開発
通信放送技術衛星 (COMETS) のデータ中継機能を継承・発展させ、地球観測衛星や JEM のデータ中継を行うことを目的とするデータ中継技術衛星 (DRTS-W、E) について、H-II ロケットにより、平成12年度に打ち上げることを目標に開発に着手する。

(2) 研究

- ① 高精度軌道決定システムの研究
将来の地球観測衛星等に求められている衛星軌道の高精度決定に対応するため、GPS 干渉測位及び衛星レーザ測距等を用いた高精度軌道決定システムに関する研究を行う。
- ② 宇宙空間からの電波監視に関する研究
今後、地球局の誤操作等により発射される電波が正常な衛星運用に支障を及ぼす恐れが増大することから、宇宙空間における電波利用の適正化を図り、通信衛星、放送衛星等の円滑な運用の確保に資するため、宇宙空間からの電波監視に関する研究を行う。

8. 施設の整備

- ① 数値宇宙エンジンの整備
最新の数値シミュレーション技術を最大限に活用し、研究開発の効率化及び高精度化を図るため、数値宇宙エンジンの整備を行う。
- ② 超高真空下における機構部品試験設備の整備
宇宙の超高真空環境下で使用する弁、アンテナ展開機構、ロボットアーム等摺動部を持つ機構部品の動作に係る研究及び確認試験に必要な極高真空環境試験設備、及び電子線、紫外線、振動等と超高真空との複合環境試験設備からなる超高真空下における機構部品試験設備の整備を行う。

9. その他

上記以外については、「宇宙開発計画」(平成7年3月29日決定)を推進する。

第13回宇宙開発委員会（定例会議）及び
宇宙開発に関する懇談会（第31回） 議事進行メモ

平成7年8月9日（水）14:00～

（委員会会議室）

議 題	説 明 者	資 料	説明時間
(委員会) 【新大臣挨拶】 1. 宇宙開発委員会委員長代理の指名について 【懇談】 【大臣御退席】			10分程度
2. 前回議事要旨の確認	事務局	委18-1 第17回宇宙開発委員会（定例会議）議事要旨（案）	2分程度
3. 計画調整部会の審議結果について	計画調整部会長 武田 峻	委18-2 関係各機関における「宇宙開発計画」（平成7年3月29日決定）に基づいた新規施策の実施及び同計画の見直しに関する要望事項について（案）	15分程度 受理
4. 平成8年度における宇宙開発関係経費の見積り方針について	事務局 宇宙企画課長 林 幸秀	委18-3 平成8年度における宇宙開発関係経費の見積り方針（案）	5分程度 決定
(懇談会) 1. 宇宙分野における国際標準化の動向について	元航技研所長 長洲 秀夫 元NASDA副理事長 船川 謙司 (社)日本航空宇宙工業 石崎 政幸 技術部長	懇31-1 宇宙分野における国際標準化の動向 (OHP有り)	20分程度
2. 「月探査に関する調査研究」結果について	文部省宇宙科学研究所 松尾 弘毅 教授 水谷 仁 教授 石澤 禎弘 宇宙開発事業団 理事	懇31-2-1 「月探査に関する調査研究」結果概要 懇31-2-2 月探査に関する調査研究報告書	20分程度
3. 熱帯降雨観測衛星(TRMM)の開発状況等について	宇宙開発事業団 立野 敏 理事 地球観測衛星グループ 山田 重雄 総括開発部員 技術試験衛星グループ 山形 史朗 主任開発部員	懇31-3 熱帯降雨観測衛星(TRMM)打上げスケジュールに関するNASAとの調整状況について	15分程度
4. 静止気象衛星5号「GMS-5」の状況について	宇宙開発事業団 立野 敏 理事 地球観測衛星グループ 山田 重雄 総括開発部員 気象庁気象衛星室長 平木 哲 運輸省政策局技術安全課 成沢 浩一 専門官	懇31-4 GMS-5赤外校正シャッタの動作状況について	15分程度

・会合スケジュール：次回宇宙開発委員会／懇談会 8月30日（水）14:00～（8月16日、23日は休会）
技術評価部会（第5回） 8月24日（木）10:00～12:00 於：科学技術庁第8会議室（通産省別館9階）
宇宙保険問題等懇談会（第6回） 8月28日（月）14:00～16:00 於：科学技術庁第8会議室（通産省別館9階）
長期政策部会（第10回） 8月29日（火）14:00～16:00 於：科学技術庁第8会議室（通産省別館9階）